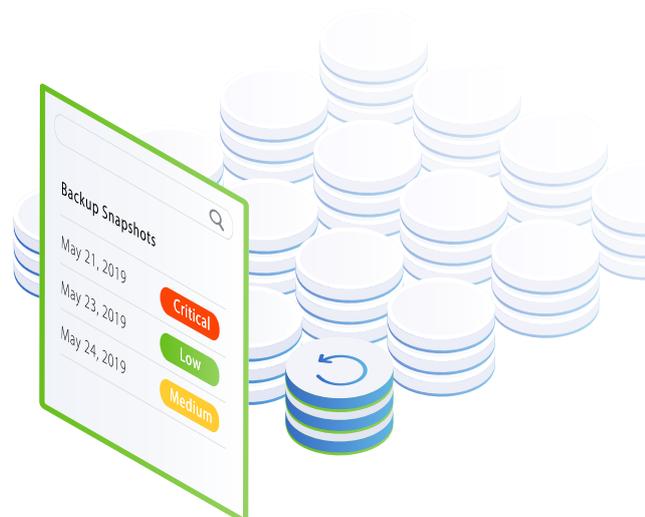


# 予測通りに データリカバリが可能か どうか判断できますか？



## 概要

ランサムウェア攻撃であれ社内事故（悪意のあるもの、あるいは人的エラー）であれ、災害に見舞われた場合には損失したデータを速やかにリカバリすることが重要です。問題は、今災害が起きたとして、必要な時に、必要な場所で、いっさい妥協することなく、バックアップデータを予測通りにリカバリできるかということです。予測通りにリカバリを確実に実行できるのであれば、SLAの達成と組織の回復力に対し自信を持つことができます。予測可能なリカバリを実現するための準備が整っているかどうかを評価するために、リカバリの核となる属性の枠組みにもとづき、以下のことを自問してみてください。



## 1. 事前に定義したバックアップSLAを達成できますか？

バックアップ作業に失敗したり、バックアップウィンドウが長くなったりして、常に本番の時間に食い込んでいるような場合、妥協を余儀なくされます。なぜなら、一部のミッションクリティカルなデータの保護をあきらめた方が便利だからです。しかし、**保護されていないデータは復元しようがありません**。バックアップが正常に完了できなければ、ビジネスSLAを達成できるはずがありません。予測可能なリカバリを実現するには、通常の本番時間に影響を与えたり、バックアップの失敗を引き起こすことなく、すべてのミッションクリティカルなデータを保護するバックアップソリューションが必要です。



## 2. Googleライクなグローバル検索を使ってVM、ファイル、オブジェクトを検索することはできますか？

さまざまなワークロードと地理的ロケーションにおけるデータの爆発的な増加に加え、サイロ化された従来のバックアップアーキテクチャと相まって、データの検索は困難になっています。リカバリのSLAを予測可能にするには、すべてのワークロードとロケーションにおいて、1つのUIからGoogleライクなシンプルな検索を実行し、あらゆるVM、ファイル、オブジェクトを簡単に検索できることが必要です。最新のバックアップソリューションを使うことで、あらゆるロケーションにおいて必要なデータを容易に探し出し、予測可能なリカバリを確保するためのワークフローを提供します。

### 企業ではリカバリの準備が いまだ整っていない\*

- 今年、企業を狙ったランサムウェア攻撃は500%増加し、損失額は115億ドルにのぼります。
- 攻撃から3日以内にデータとアプリケーションを復元できると回答したIT意思決定者はわずか11%です。
- 75～100%のデータをリカバリできると回答したIT意思決定者はわずか25%です。

”

「企業は、攻撃がビジネスに及ぼす影響を最小限に留めるために、多くの組織が現在のバックアップの方法とリカバリプロセスの見直しを進めている」

Forrester

\*Forresterが2019年10月にITインフラストラクチャーとオペレーションに関する意思決定者300人以上を対象に実施した調査。



### 3. スナップショットは健全で、予測通りのリカバリが可能ですか？

IT組織はバックアップコピーの検証に慣れていません。しかし、現在のプロセスはマニュアル作業で行われており、エラーが発生しやすく、また非科学的でもあります。問題のあるスナップショットからのリカバリは復旧の遅れにつながりますが、(サイバー攻撃に対し脆弱性を持つ)危険なスナップショットからのリカバリは、組織をサイバー攻撃の脅威にさらすことになります。

では、どのようにしてスナップショットの健全性を確保すればよいのでしょうか？自動化されたポリシーベースのバックアップ検証により、バックアップ管理者はすべてのスナップショットの健全性について必要な可視性を得ることができ、リカバリに適したスナップショットを特定することができます。可視性を高めることで、リカバリプロセスが短縮されるだけでなく、既知/対処済みのサイバー脆弱性がリカバリによって本番環境に再度取り込まれないようにすることができます。



### 4. オリジナルのデータとバックアップされたデータやアプリケーションの間に整合性はありますか？

整合性のないデータは「データが見つかりません」というエラーを引き起こしたり、最悪の場合にはデータが永久に失われてしまうこともあります。厳格な整合性を備えたバックアップソリューションは、アプリケーションへの書き込みを確認する前に、データが常にクラスタ全体で最初に保護されることを確認します。予測可能なリカバリを実現するには、アプリケーションとデータの整合性を確保するため、厳格な整合性をサポートする必要があります。



### 5. RTOは本当に迅速ですか？

目標復旧時間(RTO)はバックアップソリューションの性能を測るのに使われる重要な指標の1つであり、今日の最新のソリューションのほとんどは高速なRTOをサポートしています。RTOは技術的議論であると同時に、ビジネスSLAと密接に連携し、ビジネスオーナーとテクノロジーオーナーの両方の合意を得ることが必要です。予測可能なリカバリを実現するには、バックアップソリューションは高速なRTOをサポートする必要があり、ITオーナーは社内のお客様に対して明確なSLAを設定する必要があります。



### 6. 大規模なリカバリに対応できますか？

適切なツールを使わずに大規模なリカバリを行おうとすると、運用に支障をきたす可能性があります。1度に2〜3個のVM/オブジェクトしか復元できなければ、ダウンタイムが長引き、その結果、SLAはビジネス要件よりもリカバリ期間に左右されることになります。予測可能なリカバリのためには、いくつかのVM/ファイル/オブジェクトを即座にリカバリできることが必要です。バックアップソリューションがリカバリのためにバックアップコピーをハイドレートするのを待つのではなく、即座にマウント可能な、完全にハイドレートされたバックアップコピーを無制限に保持できるバックアップソリューションを導入することが大切です。これによって、たとえバックグラウンドでデータのリカバリが行われている場合でも、データをすぐに利用できるようになります。



### 7. 可能なかぎりあらゆる復旧時点からデータをリカバリできるRPOになっていますか？

前回のバックアップからのリストアは合理的なように見えますが、かならずしも最善の方法ではありません。特に、ランサムウェア攻撃を受けた後には、もと前の、クリーンなリストアする必要があるかもしれません。どのような状況やビジネスニーズであっても、予測可能なリカバリを実現するには、バックアップソリューションは頻繁なバックアップに対応し、性能に影響を与えることなくスナップショットをいくつでも保存でき、過去の任意の時点に復旧可能な柔軟性を備えている必要があります。



### 8. あらゆる場所に復旧できますか？

今日のグローバル環境において、データやアプリケーションは複数のロケーションで使用されており、リカバリを元の場所だけに限定することはできません。予測可能なリカバリを実現しSLAを達成するには、バックアップデータやアプリケーションをオンプレミスやパブリッククラウドなどあらゆる場所に、しかも制約なくリカバリできる柔軟性が必要です。元の場所であれ別の場所であれ、あらゆるターゲットにリストアできる柔軟性があれば、1つのロケーションにしばらくは置かれることなくビジネスSLAに応じてデータやアプリケーションを移動できるのだという確認につながります。

最新のバックアップとリカバリについて詳しく解説した[バイヤーズガイド](#)をダウンロードいただけます。

COHESITY



© 2021 Cohesity, Inc. All rights reserved.

©Cohesity, Inc. 2019. 無断複写・複製・転載禁止。この文書は情報提供のみを目的としており、Cohesity, Inc.ではあらゆる不正確さについて一切の責任を負いません。Cohesity, Inc.は、予告なしにこの出版物を変更する権利を留保します。法的事項の全文は[こちら](#)をご覧ください。©Cohesity, Inc. 2019. 無断複写・複製・転載禁止。この文書は情報提供のみを目的としており、Cohesity, Inc.ではあらゆる不正確さについて一切の責任を負いません。Cohesity, Inc.は、予告なしにこの出版物を変更する権利を留保します。法的事項の全文は[こちら](#)をご覧ください。